

令和3年7月1日

平和メディク株式会社のCSRについて

私どもの平和メディク株式会社は、長年にわたり培ったメーカーとしての経験を基に、以下のような企業としての考え方を大切にしております。

- ・企業理念 「やさしさをカタチに」
- ・品質方針 「安心と、快適さと、楽しさをお客様に。
使う人の身になって、迅速に『品質』でお届けします。」
- ・コーポレートスピリッツ（経営理念） 「ものづくりは、ひとづくり。」

そして平和メディク株式会社のCSRとは何かを改めて整理すると、これまでも企業として大切にしてきた取り組みの多くがCSRそのものではないかと考えました。そもそもCSRとは…。

- Corporate（コーポレート）企業（きぎょう）の
- Social（ソーシャル）社会の
- Responsibility（レスポンシビリティ）責任

この英語の略称がCSRで、これを日本語にすると「企業（きぎょう）の社会的責任」という意味になります。企業とは、利益を目的に物を作ったり売ったり、サービスを提供したりする会社などの組織のことですが、平和メディクは綿棒製造を中心とした医療衛生用品の製造販売を行うことで利益を得ております。

その中で、平和メディクと言う企業とそれを取り巻く人々や環境とコミュニケーションやバランスを取りながら、皆さんが暮らしやすい快適な世の中となっていくように取り組むことが、CSR「企業の社会的責任」であると我々は考えます。その実現のために、具体的にどのようなことに取り組んでいるのかと、言うことを以下に記載します。

1. 人を育てる（人材育成、学習の機会を提供）

*小学生～大学生まで、各種企業体験（工場見学、社会科学習、総合的な学習、インターンシップ、職場体験、現場実習など）の積極的な受け入れや地域教育活動への参加などにより、次代を担う子どもたちに当社製造品（綿棒・紙ストロー）の学習を通して、森林資源や地球環境の問題について考えてもらえるよう取り組んでいます。また、会社が求める人物像を具体化することにより、いろいろな人との共生、さまざまなハラスメントに気付き、差別からの脱却を目指す人材育成を大切にします。

*従業員が地域社会の一員として、消防団活動や様々な奉仕活動に参加しやすくするための職場環境づくりや社会人として地域貢献や資質向上に取り組む活動（高山祭の運営役、PTA活動、町内会活動、地

域振興に関連する活動など)への支援を行っています。

2. 地域社会、より広範囲の社会との共栄 (生活を豊かに、共に発展)

*医療衛生用品の製造を行う当社では、相互扶助の精神に基づき年2回、日本赤十字社の献血車に会社へ来ていただき、献血への協力を20年以上にわたって行っています。また地域の各種団体が取り組む活動への協賛として、以下のような活動の支援を行っています。

- ①: 飛騨国分寺の大イチョウ「乳イチョウ」伝承の保存活動への支援
- ②: 子どもたちが子どもらしく遊びを充分楽しめる環境を子どもたちにかえしてあげたいとの願いをもって活動される「ひだ遊育スクール richffl (りちふる)」への事業者賛助会員としての支援
- ③: 白川郷ウルトラマラソンとのコラボによる「参加ランナーの体を労わる [ラークバンプレゼント] (※ラークバンは当社グループ企業の平和メディクヘルスケア株式会社が製造、当社が販売する簡易鍼治療具で、この製品をウルトラマラソンの参加者の皆様に無償配布し、筋肉疲労などのセルフケアに使用していただく) 体験キャンペーン」を展開。

*豪雨災害で被災した地元自治体(下呂市・高山市)へ支援金の提供(令和2年7月豪雨)、新型コロナウイルス感染症対策支援金を高山市に提供など、微力ながら被災地の復興や医療従事者の皆様への助力となるよう支援を行っています。

*豪雨や震災などにより被災された地域への自社製品(サージカルマスク、除菌や消毒タイプのウェットティッシュ、口腔ケア用スポンジブラシなど)の無償提供により、被災地域にお住いの皆様へ健康維持の手助けを行っております。

3. 品質で社会に貢献、持続可能な社会の実現に向けた取り組み

*海洋汚染の主原因とも言われる使い捨てプラスチック包装からの脱却を目指す中で、環境に優しい紙を原料としたペーパーストローの開発、綿部以外を全てリサイクル可能な紙を主原料として製造した「ぜんぶ紙リサイクルできる綿棒」の商品化、また開発途上国への国際協力を行っている独立行政法人国際協力機構(JICA/ジャイカ)が発行するソーシャルボンド(JICA債)への投資などを通して、日本の国際協力的一端を担っています。